

## 「当たり前」

新居浜市立船木中学校 3年 安部 楓華

みなさんは、身の回りの人が犯罪行為をしていたらどうしますか。はっきりと「やめよう」と声をかけることができるでしょうか。

万引きや未成年の飲酒、喫煙などは犯罪行為であることは、ほとんどの人が把握している「当たり前」です。しかし、それらの犯罪が0になったことは今までありません。いけないことだとみんなが理解していても、してしまう人がいるのはなぜなのでしょう。そしてその責任は、本当に本人だけのものなのでしょうか。

そのようなことを考えるきっかけになったのは、未成年飲酒の動画が SNS に上げられていたり、飲酒運転による事故のニュースを見たりしたからです。私はそういった動画やニュースを見ると、「なぜだれも止めないんだろう」「どうして悪いと分かっているんだろう。」という疑問がわいてきます。

そこで、飲酒や喫煙などの犯罪行為に誘われた状況を考えてみました。誘われて、その誘惑に負けてしまうとき、本人は「ちょっとぐらいなら、ばれないだろう。」という軽い気持ちなのかもしれません。先輩や立場が上の人に誘われて、断れなかったののかもしれません。そして、本人がこのような場面に遭遇したとき、周りに止めてくれる人がいなかったののかもしれません。

犯罪行為は、本人の誘惑に負けてしまう心と、それが起こってしまう環境の二つがそろったときはじめて起こってしまうのかもしれないと感じました。ということは、犯罪を防ぐためには、本人の強い意志はもちろんですが、間違っただに進ませないような環境も同じくらい大切なものだと考えられます。

また、この状況を想像したとき、友人や信頼している大人が自分を犯罪行為に巻き込もうとしていると思うと、とても悲しくなりました。困ったときに助けてくれたり、自分が間違っただけをしたときにきちんと叱ってくれる、そんな人たちが、私を間違っただけに誘おうとしている。そのような環境だと、私は周りの人たちのことを信頼できなくなってしまいます。

今までは、自分が犯罪行為をしなければよいと考えていました。しかし、犯罪行為をしたとき、傷つくのは本人だけではありません。その周りの人は本人よりももっと傷ついているかもしれません。私は、自分の行いで周りの人を悲しませたくないですし、周りの人の行いで自分も傷つきたくありません。そうならないためにも、強い自分の意志を持ち、間違っていることを止めることができる人になりたいです。

今、自分の周りに信頼できる人たちがいるから私は安心して暮らせています。そのことが本当に幸せなことなのだと、この作文を通して気付くことができました。

誰もが知っている「当たり前」のこと。それを守っていることがどれほどすばらしく、周りの人を幸せにしているのかを、たくさんの人に伝えていきたいです。

みなさんには、その場の雰囲気になれないような気持ちを、どんなときでも持っていてほしいです。そして、その気持ちを持つ人がこの町に増えれば、防ぐことのできる非行や犯罪に気付ける人も増えてくると思います。私も、していいことといけないうことの区別をつけ、様々な場面で慎重に選択をしながら過ごしていきたいです。みなさんも、自分や周りの人が安心して暮らすことのできる町を目指して、自分のことから心掛けてみませんか。

## 「ルールを守る意味」

新居浜市立船木中学校 3年 篠原 柚帆

あなたは、人に叱られるからという理由でルールを守ったことがありますか？  
きっと、これは人間誰しもが経験することだと思います。私の身の回りでは「先生に見られたら叱られる。」と言って、先生の目に届かない所でだけ学校のルールを破っている人もいます。他にも、先生によって授業の態度を変えるなど、似た例を挙げだすとキリがありません。

しかし、叱られるのが嫌だから特定の人の前だけでルールを守る、その考え方のままで本当に良いのでしょうか。

私の先生はよく、「ルールはみんなのためにあるのですよ。」と教えてくれました。ルールやマナーを守るのは「先生に怒られないようにするため。」ではなく、「私たちが困らないようにするため。」先生の心からの思いが伝わってきました。私もその先生の言う通り、人に叱られたくないからという理由でルールを守るのは間違いであると考えます。その考え方のままでは、いつまでも自分から進んでルールを守ることにはできません。ルールを守るのは自分のためでもあると気付くことはできません。それを知らないまま社会に出たとしたら、どうになってしまうのでしょうか。

そもそも、なぜ罪を犯してはいけないのか。きっと、多くの方は「法に触れたくないから。」「警察に捕まらないようにするため。」などの思いから罪を犯そうとはしないのでしょうか。確かに、世の中の決まりを破ってしまえば自分が苦しい思いをすることは明白です。しかし、犯罪をしてはいけない理由はそれだけではありません。罪を犯すことは、事件の被害者はもちろんのこと、自分や家族、友達までも傷つけてしまうことになります。それこそが、非行をしいけない一番の理由なのではないのでしょうか。もちろん、法に触れないようにしたり、警察に逮捕されないように意識したりすることは大切です。しかし、それが「法律」という社会の守るべきルールが存在する理由ではない。私は、学校のルールを守る意味を考えることを通して、そう思うようになりました。

ところが、毎日のニュースでは当たり前のように事件で逮捕されたという報道がされています。それはなぜなのでしょう。もちろん、衝動的な怒りによって罪を犯してしまうこともあると思います。しかし、私は、犯罪者には一緒に悩んだり苦しんだりしてくれる人物がいない、または居たとしてもその人達が悲しんでしまうことを想像できないことも関係しているのではないかと考えます。そのために、人の気持ちを慮らないような犯行ができてしまうのではないのでしょうか。やはり、自分を支えてくれる人や、信じてくれる人の存在はなにより大切です。家族、友人、地域の人々、繋がりや輪が広がっていけばいくほど、その

相手の気持ちを想像して行動することができるはずです。犯罪をしてしまうかどうかには、周りの環境というのも重要な要素なのでしょう。

私は、幸せは連鎖するように、悲しみも連鎖してしまうものなのだと思います。人との結び付きを感じられる人が増えていくと、それだけ幸せは増えていくのだと思います。そんな人と人との結び付いた、幸せが連鎖する地域に、私はしていきたいです。

## 「主張の大切さ」

新居浜市立南中学校 3年 中島 右慥

世の中には、数えきれないほどのルールやマナーがある。とても小さなものから、大きなものまで、あらゆる場面に応じてルールは作られてきた。

たくさんのルールが存在すると、賛成の声があれば、反対の声もある。ルールに反対しているという、少し悪い印象を受けるかもしれないが、それは間違いである。そのルールが、時代の情勢に合っていなかったり、矛盾が生じていたりすることもあるからだ。また、反対意見は、たとえ少数であっても必要不可欠なのである。大勢の意見だからといって、正しいとは限らないのだから、どんなに少数の意見であっても、大切に扱われるべきだ。

しかし、ここで注意してほしいのが、意見の伝え方である。どんなに正しい意見を持っていたとしても、相手への伝え方を間違えてしまうと、うまく伝わらなかったり、悪であると受け取られたりしてしまう。例えば、暴力、過激な言葉、挑発行為。これらの行動によって訴えると、そこにどんなにもっともらしい思想があったとしても、悪とみなされてしまうケースが多い。物事に対して、あなたが意見を述べたいと思うのなら、相手が納得できる根拠を用意して、その伝え方に気を付けてほしい。そうすることで、多くの人々が互いに正しく理解し合い、必要の無い分断を無くすことができるはずだ。

また、意見を主張する側だけではなく、受け取る側の態度も大切だ。どんな意見も、聞き手が聞こうとしなければ何も始まらない。さらに、聞く側が断固として自分の意思を曲げず、相手を拒否しつづければ、これもまた必要のない分断を生むことになってしまう。そうならないようにするためにも、最後まで相手の主張を聞き、全て聞き終えてから、反論や矛盾点を述べる。たとえ相手が完全に間違えていると感じたとしても、相手を見下したり煽ったりせずに、礼儀をもって対話をするべきだ。

このような意見の対立は、日常の中にたくさんある。特に最近は、SNSで特定のある人を批判し、それがきっかけで口論になっているのを、何回も、何十回も見つた。SNSで互いに顔が見えないことに安心しているのだろうが、これがマナー違反であることは明らかだ。SNSは自由に発信できる場だ。しかし、例えばあなたの発言が、中学生なら中学生の、甘党なら甘党の、辛党なら辛党の・・・といったように、あたかもそのグループを代表した意見であるかのように受け取られかねないということを意識してほしい。何気ない発言が、そのグループの印象をガラリと変えてしまうこともあるのだ。

このように、一人が何かをしただけで、世間の反応は良くも悪くも変わってしまう。だから、何かを主張したいときには、慎重な姿勢を持っていなければならない。

ない。SNS で自由に発言できるようになった現代。これから世の中は、あらゆる  
良いこと・悪いことに満ち溢れるだろう。そんな時代だからこそ、落ち着いて、  
感情にまかせず、自分の伝えたいことを、多くの人が納得できる形で、伝えてほ  
しい。

## 「間違って直せばいい」

新居浜市立南中学校 3年 浅野 颯大

この世に完璧な人間はいない。誰もが、生きていく中で道を誤ることがある。私も同じだ。何度も何度も、たくさんの過ちを繰り返してきた。

その間違いを繰り返さないように、私たち人間は生きている。しかし、その間違いを繰り返してしまう人たちがいる。しまいには、犯罪や非行に手を染める人たちがいる。彼らは、そうした行為が好きでしているはずはないと思う。皆、心の底はあたたかくて優しい。どんな人でもそうだ。しかし、なぜ間違いを繰り返し続けるのか。

私は「心のコントロール」が関わっていると思う。

私が道を間違えて、親に叱られたときに、「心のコントロール」について話をされた。自分のやりたいことを我慢するとき、相手から何か気に障ることを言われたとき、心にブレーキをかけてグッときらえる。これが「心のコントロール」である。大事なときに、自分の欲望に負けた人が、犯罪や非行などの誤った道を選んでしまう。

「心のコントロール」を身に付けるのは、とても難しい。私もまだ身に付けられていない。身に付けるまでには、長い時間が必要だ。しかし、身に付けることができれば、友達とのコミュニケーションを上手く取れるようになる。言葉を発する前に、「この言葉で相手は傷付かないだろうか」と考え、より良い言葉で楽しく会話できる。

「心のコントロール」が十分ではなくて、何か犯罪や非行をしてしまった人も、そこで終わりではない。自分の誤った行動を認め、反省し、またやり直せばいい。同じ過ちを繰り返すと、やり直すのはしんどくなる。また大きな過ちを生んでしまう。

私が伝えたいことは、誰もが誤った道を進みそうになることはあるが、やり直すことはできるということだ。

失敗や間違いは誰にでもある。人生で一度も間違いを犯さないような完璧な人間は絶対にいない。いつかどこかで必ず間違える。多くの大人たちが正しいことをしているのは、小さい時の経験から学んできたからだ。間違いを繰り返すからこそ、立派な人間になることができる。

だから、別に間違えたっていい。間違いを繰り返し続け、学んでいけば大丈夫だ。良くないことは「良くない」と思える、言える、判断できるようになるまで、ひたすらに頑張ればいい。

そうやって学んで立派になった人がたくさん増えて、この新居浜を、非行や犯罪の無い街に、みんなが笑顔でいられる街に変えられるようにしたい。この手で

この街を明るくしていきたい。



## 「身近なことから始めよう」

新居浜市立北中学校 1年 武田 葵衣

『新居浜を明るくする運動』という言葉を知った時、「明るくするってどういうことだろう?」と考えました。新居浜中の電灯を増やすことではないし、お祭りのようにライトアップすることでもないなと思いました。いろいろ考えていくうちに、それはこの新居浜を誰もが笑顔で安心して暮らせるような場所にする事なんだということに気がきました。そう考えると、中学生の私たちにもできることがあるような気がしてきました。

まず、私が考えたのは、あいさつの大切さについてです。私は小学校低学年の頃、知らない大人にあいさつをするのが少し恥ずかしくて気付いていないふりをして通り過ぎてしまうことがありました。でも小学校高学年になってからあいさつの大切さがよく分かるようになり、通りかかった人に「こんにちは」と言ったら、地域の人が笑顔で「こんにちは」と返してくれたことがありました。その時、私はとても気持ち良くなり、改めてあいさつが大切なのだということが分かりました。お互いに顔を知っていて、声を掛け合える関係があれば、困った時に助けを求めやすくなるし、新居浜全体が温かい空気になると思います。逆に、みんなが無関心であいさつもしない冷たい街だったら悪いことをしようとする人が増えていくかもしれません。だから私はこれからも自分から地域の人や友達にあいさつをしていきたいと思いました。

次に大切だと思ったのは、友達や周りの人に対する思いやりです。学校生活の中で、誰かが一人でさびしそうにしていたり、困っている人に「大丈夫?」と声を掛けたりするのは勇気がいります。でも、逆の立場だったら誰かが気付いてくれるだけでとても救われると思います。みんなが少しずつ優しくなれば、学校がもっと楽しくなり明るくなると思います。そして、学校が楽しい場所であれば心に悩みを持って悪い道に進んでしまう人もいなくなるはずです。小さな優しさが積み重なって大きな「安心」に変わっていくのだと思います。

また、私たちの住む新居浜市には、「新居浜太鼓祭り」があります。このお祭りの時のようにみんなで力を合わせる気持ちを、普段の生活のなかでも大切にしたいです。学校では掃除の時間に一生懸命動いたり、教室に落ちているごみを拾ったりすることも、街を明るくすることにつながると 생각합니다。みんながこの新居浜を綺麗に保とうとする気持ちを持つことでもっとすばらしい街になるはずです。

「新居浜を明るくする運動」ということは、とても大きくて難しそうに感じます。でもその中身は、あいさつをすること、友達を大切にすること、街をきれいにする事ということという当たり前で身近なことばかりです。私はまだ中学生で、大きな

事件を防いだり、街を大きく変えたりすることはできません。でも、明るいあいさつで誰かを笑顔にしたり、困っている友達の隣に座ったりすることはできます。そんな身近なことを一つずつ毎日続けていこうと思います。

この新居浜がこれからも笑顔あふれる明るい街であるように、私は自分にできることを一つずつ始めていきたいです。

## 「あいさつで気付けたしあわせ」

新居浜市立北中学校 2年 田澤 翼

僕は散歩をするとき、人に出会ったらあいさつをしています。「こんにちは。」と明るく言うと、「こんにちは。」とゆったりとした優しい口調で返してくれます。あいさつを返してもらうと、なんだか心がぽかぽかと優しい気持ちになります。

そんなあいさつですが、僕はつい最近まであいさつをすることがきらいでした。すれ違った人に、「こんにちは。」と言っても下をうつむき、無視をされるだけだったからです。それが少し辛いな、悲しいなと感じていました。

しかし、「あいさつは自分が好きでしているだけだしな。」といつしか考えるようになっていきました。そうしているうちに、あいさつをしない人と出会っても、自分を無理やり納得させる癖が付いてしまった気がします。そんなことが続き、僕自身がいつしかあいさつをしなくなりました。あいさつをしようと思っても、「どうせ返してもらえない。かえって悲しくなるだけだからやめておこう。」と考え、誰かとすれ違って口が開かないままでした。そんな事を考えながら、一步一步が重い足と、もやもやした気持ちを抱え、歩いていました。

そんなとき、「こんにちは。」と懐かしい、優しい響きが聞こえました。僕はびっくりしましたが、なんとか小さい声でボソッと「こんにちは。」と返しました。たったそれだけしか言えませんでした。心がどんどん晴れていくような気がして、家に向かう足取りも軽くなりました。たった一言、たった四文字で、こんなに嬉しくなるものなのだなと思いました。あいさつには、すばらしい力があるのだと気が付いたのです。

それからの僕は、まずは自分からあいさつをしようと、再び決意しました。返ってこなかったとしても、気にしないようにしました。以前の僕は、人からどう見られているのかを気にしすぎていたのかもしれない。

自分からあいさつをするようになって、特に嬉しいなと思った事は、僕があいさつをした後、「あいさつできてえらいねえ。」「最近は冷え込んでいるから風邪をひかないようにしなさいよ。」などと、すれ違った地域の方々が、見ず知らずの僕に掛けてくださった心の温まる優しい一言です。何気ない一言だったのかもしれませんが、その言葉で僕はとても温かくてしあわせな気持ちになりました。

あいさつは、誰でも、どこでもできる魔法のような言葉です。話すことが苦手でも「こんにちは。」と優しく言うと、返してくださる人は必ずいると思います。だから、何度でも何度でも、例え一度や二度、相手に届かなかったとしても、根気強く「こんにちは。」と言ってみることも大切だと僕は思います。そして、あいさつをする事で、自分だけではなく、あいさつをした周りの人達も笑顔になる

ような、そんな気がします。

僕はこの体験を通して、あいさつがもっと好きになりました。あいさつをすることで、こんなにも温かいしあわせの輪が広がることを、たくさんの人に知ってもらいたいです。

## 「新居浜市を明るい町へ」

新居浜市立北中学校 3年 梶谷 理紗

私は、新居浜市という素敵な町を非行や犯罪のない明るい町にするために考えたことが三つあります。

一つ目は、小学校や中学校の行事などで、地域の人や、近所の人と交流して関係性を築くことです。交流をすることにより、何か自分の身の周りで危ないことや不審に思うことがあったときに、周りの大人に相談したり、頼ったりすることができるようになりますと思います。「こんにちは」「ありがとうございます」の一言や気持ちの良い挨拶で、信頼を少しずつ築いていくことが大切です。例えば、私は、部活動で校区のごみ拾いをすることがあります。その時に、地域の方へ自分から挨拶をすると、「ありがとう」や「頑張ってるね」と声を掛けてもらえることがありました。そんな一言を聞くともっと頑張ろうと思えました。この経験から、挨拶をすることによって、人と人との信頼関係を築き、挨拶をすることで温かい気持ちになることを学びました。

二つ目は、正しい知識を身に付けて生活することです。そのためには、勉強をすることは、とても大切です。勉強をすることで、良いことと悪いことの判断ができるようになったり、自分で正しい行動ができるようになったりすると思います。学校の授業で非行や犯罪について直接学ぶことは少ないけれど、周りの友達と一緒に過ごしていく中で、意識していなくても学べることはたくさんあります。相手の気持ちを考える力、友達と協力する力などを自然に身に付けることができ、それが信頼関係へとつながっていくと思います。

三つ目は、ルールや決まりを守ることです。時間を守ることやごみのポイ捨てをしないなど、一つ一つの積み重ねが地球や社会の安心や安全につながります。一人一人が意識することにより、安心して暮らすことができるようになりますと思います。

このように、地域の人との交流、正しい知識を身に付けて信頼を築いていくことが非行や犯罪のない明るい町づくりにつながると思います。そのために、一人一人が自分の行動に責任を持ち、その小さな行動の積み重ねにより、安心して暮らせる社会の実現につながります。

これからは、自分にできることは何かということを考えて、いけないことをしている人には注意をしたり、地域の人に気持ちの良い挨拶をしたりして、より良い町づくりに貢献していきたいです。

そして、地域の人たちが互いに助け合い、支え合い、子供から大人まで誰もが安心安全に暮らせる新居浜市になってほしいです。また、非行や犯罪がなく、困っている人がいたときには、地域全体で支えられるような笑顔があふれる温か

い町になってほしいと思います。